

議論する力の育成について

育成を目指す資質・能力の中で思考力・判断力・表現力等を養うことが位置付けられていますが、その際の「表現力」とは、小学校学習指導要領解説「社会編」によれば

考えたことや選択・判断したことを説明する力や、考えたことや選択・判断したことを基に議論する力などである。(以下略)

と明記されており、さらには

「議論する力」については、他者の主張につなげたり、互いの立場や根拠を明確にして討論したりして、社会的事象についての自分の考えを主張できるように養うことが大切である。」(下線は筆者)

と解説されています。



これまでも、優れた授業では児童・生徒同士の活発な話し合いは行われていましたが、新学習指導要領で求められているのは、**全てのクラスにおける議論**ができる力の育成であることをおさえておく必要があります。

多くの授業では指導案に「～について話し合う」という活動が示されています。しかし、その多くは、児童・生徒の「発表」「報告」「説明」といった活動で終わっていることが多いのも事実です。さらには、「発言者から聞き手へ」という一方向の内容になっている場面も見受けられます。「話し合う」活動が単に意見の発信や交流で終わっていて、児童・生徒の思考や理解がなかなか深まらないことが、課題であると言えます。

1 「主体的・対話的で深い学び」実現のための授業づくり

対話的に学ぶ学習形態の一つに「討論」を位置付けることができます。ここで、確認すべき事は、討論は手段でしかなく、社会科の目標を達成する方法として適しているということです。「討論の授業」は

- (1) 自らの考えをより確かなものにする。
- (2) 対立した考えを調整する力や新たなものを創造する力を身に付けることができる。



などが期待できる点として挙げられます。ステップとしては

- ① 自分の考えをもつ ⇒ ②自分の考えを述べる ⇒ ③まわりの意見を聞く
⇒ ④ はじめの考えを修正する

討論に参加しているということは、自らが変容・成長していくことでもあります。

2 「討論教材」の開発のポイント

(1) 疑問（問い）が生み出されること

解釈や意見，立場などの違いのある社会的事象を教材化する。

討論のためのテーマが生まれる仕掛けをする。（討論の必要性）

(2) 対立軸が明確な教材であること

例 本州四国連絡橋は四国の人々にとってよかったのか。

津波を防ぐために、海岸堤防を震災前より高くすべきか。

新学習指導要領では「社会にみられる課題」を取り上げ、その解決に向けての社会への関わり方を考えさせる必要があるとされています。さらには、「AかBか」といった二者択一ではなく、調整型の意見が出され、対立から合意形成を図るための知恵が生み出されることが期待されます。

拙速に答えを出すのではなく、**結論を出すことができない課題であることに気付くことに意義があると言えます。**



3 討論を成功させるポイント

(1) 思考を深めるテーマ

例 庄内平野ではどのように米作りを行っているのだろうか。✕

⇒ 事実の確かめを重視。議論が焦点化しない。

庄内平野が米作りに適しているのはなぜか。○

⇒ 「どうして」「なぜ」「どちらか」といった疑問詞を含める。

「自分はどうか」「どうしたらよいか」という意思決定型や提案型のテーマも効果的である。

(2) テーマに関連する学習内容の習得

児童・生徒の知識の習得が不十分なまま討論を行うと、知識の豊富な子だけが活躍したり、討論が事実に基づかないものになってしまったりします。また、教師の働きかけとして「もっと調べないと簡単に結論は出せない」と討論の限界や新たな課題に気付かせることも重要です。

(3) 教師の指名

児童・生徒による発言の相互指名では、一見主体的に見えても、思考が深まらないこともあります。話合いを深めたり広げたりするためには、教師による意図的な指名が必要です。まさに、教師による発言のコーディネート力が討論の成否を分けます。

(4) 討論の仕方の指導

国語科の学習成果を生かすことが必要です。

- ・前に発言した人につなげて話す
- ・話している人を見て最後まで聞く など

(5) 学級の人間関係、信頼関係の醸成

互いの違いを認め合い、受け入れる風土が醸成されることが土台として必要です。 ⇒ 日頃の学級経営

前述の内容をまとめると、**対立**を教材として取り上げ、**合意**を目指す能力の育成が小学校から求められていると言えます。

例

小学校3年生 「ごみを減らすためにお金をとったらどうだろう」

小学校5年生 「食料自給率を高めるためにはどのような対策を行えばよいか」



問題解決は難しいが、考え続ける基礎を育むという視点での指導が大切と言えます。
できれば、互いの思いや願いを実現できる解決策は何か。

それは、実現可能な解決策か？



議論(討論)を通して、テーマであるその課題に対して、自分なりに考えることは、児童・生徒が自ら問い直すことにつながります。

また、教師にとっては、カリキュラム・マネジメントの視点から、単元をどう構成するか検討することにつながります。単元のまとめとして終末に位置付けた実践も効果的です。